

やっかいな問題

リッテル、ウェッバー等によると

1. 正解が存在しない
2. 問題に終わりが無い
3. 真偽ではなく善悪が問われる
4. 解決策の有効性を検証する決定的な手段がない
5. 解決策は1回しか実行できず、試行錯誤から学べない
6. 計画の範囲や手順をすべて書き出しておくことができない
7. 問題は2つとして同じものがない
8. 目の前の問題は、別の問題の兆候かもしれない
9. 問題をどう説明するかによって、解決の仕方が変わる
10. 間違った解決策は人々の生活に困難をもたらす
 - ・時間が限られている
 - ・解決しようとするものが問題を起こしている
 - ・解決に専念する中心が存在しない
 - ・問題が先送り
 - ・何もしないという選択肢が存在しない(何もしないということが態度表明になる)

やっかいな問題に取り組むためのヒント

1. 誰(何)が探求のプロセスに関与しているか？ 参加の範囲・度合
2. 共創のための調整 ← 多様性、知識の翻訳、関係の創出、統合、批判
3. 統合して新しい実践と共に「創出」
4. 継続 ← 十分な対応になっていないことが多いため

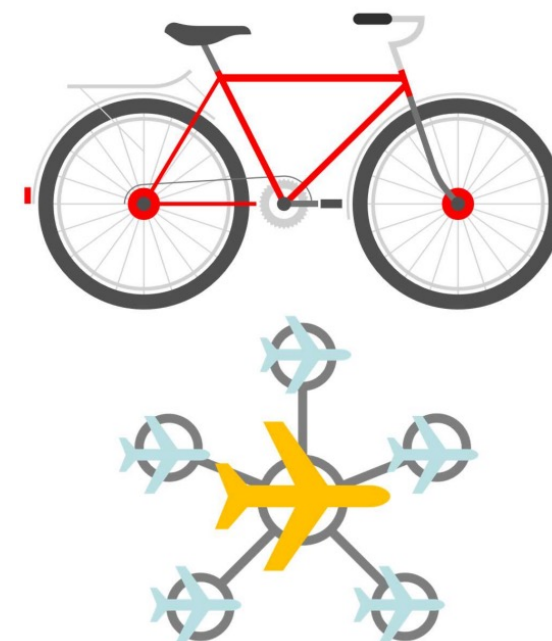
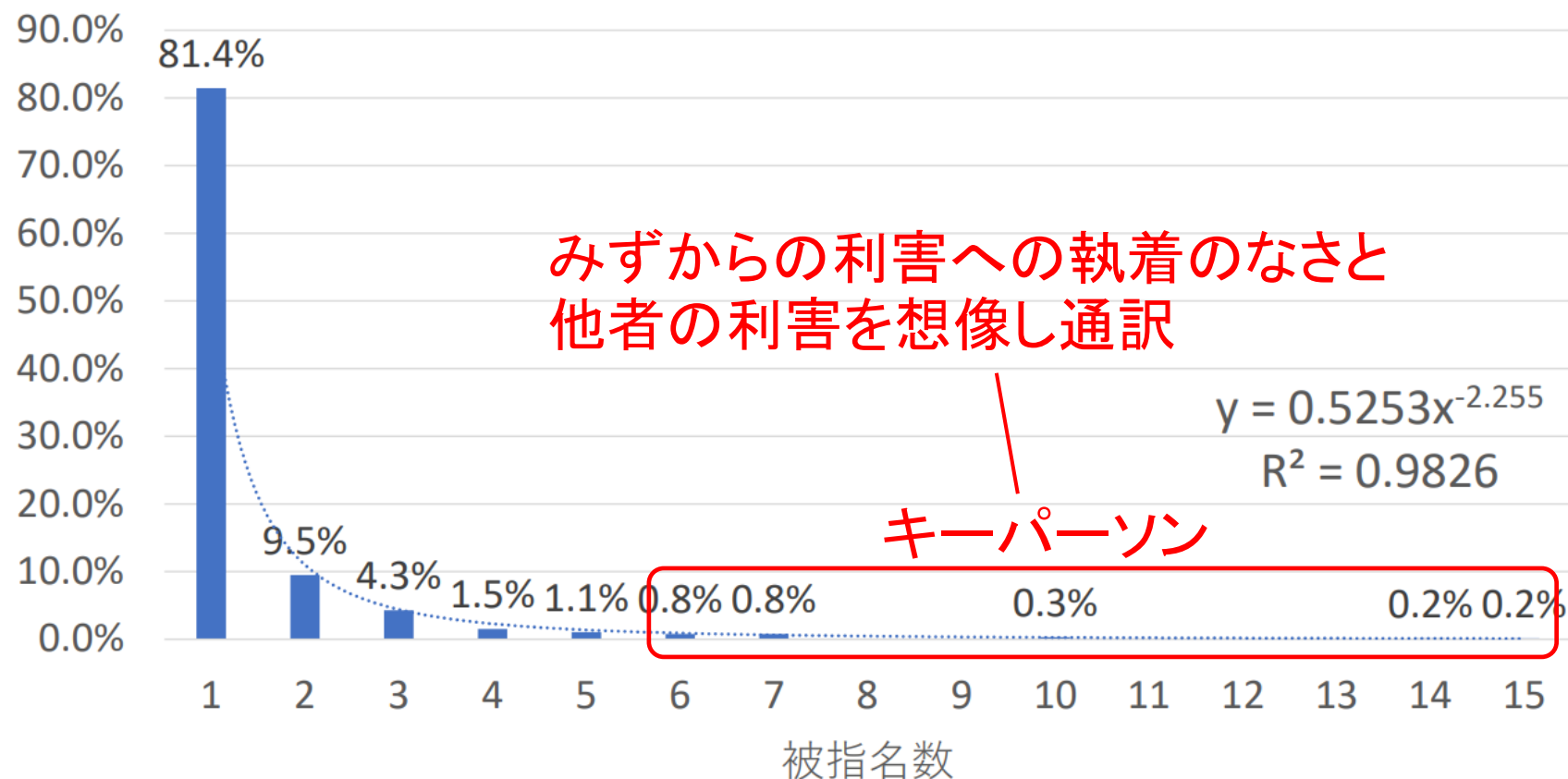
多様性を活かすには

1. 多様性があることを気づく
2. フィードバックを簡潔に(褒める点は褒め、改善点は明確に伝える)
3. 見解の相違がポジティブであること認識
4. 失敗を許容。 問題の先延ばしを共有

- ・問題に気づきながら、これを見なかったことにして、脇に退けたり、解けたことにして済ませてしまうような態度こそが、**倫理的な悪**を生み出している
- ・**適切に問う**ことができたとき、そこにはすでに**答え**の一部が含まれている
- ・やっかいな問題は、「どのような世界に生きたいと欲するか」という問いであると、言い換えることができる
- ・インパクトを生み出すためには思考の**多様性**が必要とされるからこそ、まずは「**もめる**」ということに向き合ってみる

社会ネットワーク構造は「ハブ」が存在するインターネットとよく似たスケールフリー・ネットワーク。地域ごとにみても同様

指名数ごとのキーパーソンの分布（調査時点、全体比）



出典:「東北リーダー社会ネットワーク調査」京都経済短期大学 菅野拓

https://www.etic.or.jp/recoveryleaders/wp-content/themes/recoveryleaders/assets/socialnetwork/pdf/socialnetwork_01.pdf